

## 岡山県花き消費拡大実行委員会 (岡山県)

協議会構成団体：岡山総合花き株式会社、全国農業協同組合連合会岡山県本部、岡山県、岡山市市場事業部、岡山県花卉農業協同組合、岡山花き仲卸協同組合、岡山県花卉商業協同組合、岡山県花木園芸商業協同組合、岡山県三栄生花商業協同組合

### 戦略品目

切り花：りんどう  
スイートピー



### < 取組内容 >

#### 1 生産供給体制の強化

- ・県オリジナルのりんどう極早生品種「岡山RND4号」の初期生育の向上や収量の増加を目的に、収穫後ジベレリン処理を行い、次年の生育や切り花品質への影響について県内2産地2名のほ場にて調査を行った。
- ・産地では、落蕾の発生が少なく、特徴的な形質を持ち商品性が高い県オリジナルのスイートピーの育成を求められており、県で育成中の系統について、現地での適応性を確認するため、県内2産地4名のほ場にて実証を行った。

- ・収穫後ジベレリン処理により、慣行区と比べて翌年の開花時期が早くなるが草丈、節数、花段数がやや減り、出荷規格についても低規格の割合がやや増加した。
- ・令和3年産は、課題となっている落蕾の発生は現地では少ない傾向であり、育成中の難落蕾性品種でも落蕾は0.9%と他品種と比べて少なかったものの、収量が少ないことが課題であった。特徴的な形質を持つ品種も同様に収量が少ないことが課題であった。



収穫後ジベレリン処理の実証



難落蕾性系統の実証

#### 3 需要の拡大

- ・県産りんどうの一般消費者へのPRを目的に、県内商業施設と連携し、フラワーフォトスポットの設置や110店舗への装飾展示を行った。
- ・県産スイートピーやフラワーバレンタインのPRを目的に、県内商業施設にてスイートピーを使用したフォトスポットの設置や、フィギュアスケート大会のビクトリーブーケ製作等で花きの魅力を広く発信している方を講師とし、講演やデモンストレーションを行うオンラインセミナーを開催した。

- ・りんどうのPRについては、駅地下の商業施設で展示を行うことで幅広い世代に魅力を発信することができた。また、展示に参加した店舗のうち87%がこの取組(店舗に花を飾る)を良いと捉え、92%が引き続きこの取組に参加したいと回答した。
- ・スイートピーのPRについては、県内最大の商業施設で展示を行うことで幅広い世代に魅力を発信することができた。オンラインセミナーについては、講演は131アカウント、デモンストレーションは99アカウントのユーザーが参加し、コメントや質問に対して随時講師の方が対応するなど、オンライン配信ならではの交流を行った。



商業施設での展示



フラワーバレンタインセミナー

### < 今後の取組予定 >

- ・りんどうについては新品種である岡山RND5号の実証に取り組み、スイートピーについては課題である収量の少なさを補完する「売り出し方」について検討する。
- ・県産花きのPRは継続して実施するとともにより多くの人に魅力を感じてもらえるよう、大型イベント等での展示を実施する。

## 広島花きイノベーション事業推進協議会（広島県）

協議会構成団体： 広島県花卉園芸農業協同組合、広島生花出荷協同組合、広島県花き商業協同組合、広島市三友生花卸売商業組合、株式会社花満、株式会社広島県東部花き、株式会社呉生花市場、一般社団法人日本インドアグリーン協会広島県支部、NPO法人日本園芸福祉普及協会、広島県農林水産局農業経営発展課

戦略品目  
切り花：菊



オンライン動画を活用したレッスン



著名人によるいけばな展



### < 取組内容 >

#### 1 生産供給体制の強化

・スプレー菊における育苗期のUV-B(LEDランプ)照射が白さび病を抑制する効果と多収栽培により品質向上及び生産性向上を実証する事業とした。UV-B(LEDランプ)を照射した苗としなかった通常苗と仕立て本数を変えた株の収穫数、販売結果により収益性を比較することを目的とした。

・挿し穂を採取した親株にすでに白さび病が発生していたため白さび病が発生した。発病抑制の効果は実証できなかった。  
・多収栽培では草丈も短い等の問題はなく、規格がさがるものが増えるものの収穫本数が増えることにより、多収区の方が慣行区よりも収益が上がった。  
・よって、販路が確保されれば、多収栽培は経営向上の一手段と検証できた。



LEDランプ照射時の育苗ハウス内の様子

#### 3 需要の拡大

・秋の旬の季節にイベントを開催し、戦略品目の県産花き(菊類)を用いた展示、地元著名人によるいけばな室内装飾の提案、ワークショップ体験、特別講演会開催等により、花きの効果効用の発信等を行い花きの需要拡大を促した。(街にみどりをくらしに花を・今が旬! マムフェスティバル)

・戦略品目の県産花き(菊類)を用いたいけばなを主体とした競技イベントを実施するとともに、多種多様な菊類の品種展示・紹介を行った。

・コロナ禍によりお稽古等のリアル開催が難しくなったことから、花き小売店経由で花材等を届け、オンラインレッスン動画を作成、活用して家庭、あるいは保育園等にいながらアレンジメント体験を実施した。

・広島市長、広島県農林水産局長、元サッカー選手など著名人によるいけばな作品の展示や新しい花きの展示方法、盆栽の魅力を伝える特別講演会などで花きの魅力を訴求できた。また菊の多様な品種と活用方法を展示やミニ講演会で一般市民に発信できた。ワークショップでは、多くの参加者に菊を使ったフラワーアレンジメントなどで、気軽に花きを飾れることを体験してもらった。花き品評会に相乗りした高校生による花いけコンテストでは、独創的な花活けを消費者に発信した。

・参加8校19チームによる競技が行われ、広島県立福山誠之館高等学校のチーム「Flora(フーラ)」が優勝を勝ち取った。コロナ禍のため、積極的なPRは避け、基本無観客での実施とし、YouTube配信で発信した。

・オンライン動画を活用したアレンジメントレッスンには、園児等も含め420人が参加し、その作品・感想等はSNSを活用して収集でき、花を飾りたいと思う人が95%にのぼることがわかった。



高校生による花いけコンテスト



高校生によるいけばな競技

### < 今後の取組予定 >

- ・和菊主体の生産が多いことから、洋風菊(マム)の試作に次年度は取り組み、イベントで活用することで花き生産者に消費者の評価を感じ取ってもらう機会を創造する。
- ・前年度のイベントを基本に、今後も消費拡大プロモーションを継続し、異業種とのコラボも行き、花きの需要拡大を図る。
- ・今年度好評だったオンライン体験レッスンを充実・拡大し、さらに、産地訪問ツアーを企画する。コロナ禍でも対応可能なようにオンラインツアーも同時企画する。



## 山口県花卉園芸推進協議会 (山口県)

### 【協議会構成団体】

山口県花卉園芸農業協同組合、山口県農業協同組合、(株)徳山花市場、(株)山口県中央花市場、(株)下関合同花市場、花卉商代表、(一財)やない花のまちづくり振興財団、(一社)JFTD75花キューピット山口支部、山口県地域消費者団体連絡協議会、山口県

### 戦略品目

切り花：県産リンドウ  
(やまぐちオリジナルリンドウ含む)



県産リンドウを使ったフラワーアレンジメント

### < 取組内容 >

### < 取組の成果 >

#### 3 需要の拡大

県産リンドウの新規需要の創出や拡大に向け、県内集客施設において展示を行った。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における聖火リレーセレブレーション会場等において、県産リンドウを使った会場装飾を行い、来場者等へPRを行った。結果、全国に先駆けて出荷が可能な5月出荷のオリジナルリンドウについて、県民の認知度が高まった。



集客イベント等でのPR

#### 4 成果の普及活動

・県産リンドウPR展示の活動状況及び実証試験等の品質評価の報告を行い、今後の生産拡大や販売促進に向けた情報共有を図った。  
(需要拡大セミナーの開催)

・新規需要の創出に向け、需要拡大セミナーで提案した作品の写真展示、HPでの紹介、印刷物の展示により、情報発信を行った。

- ・生産者や流通業者、実需者等関係者が参加したWebセミナーを開催し、リンドウ活用方法の提案や実需者アンケートを踏まえた出荷規格等に係る意見交換を行った。  
その結果、出荷規格の見直しを行うこととなり、今後選別作業の省力化や出荷率向上が見込まれる。
- ・消費拡大拠点であるやまぐちフラワーランドの施設内や、HP等でリンドウの活用方法を紹介するとともに、オリジナルリンドウのポスターやパンフレットの展示を行った。  
その結果、消費者への普及啓発を図ることが出来た。



需要拡大セミナーの開催



規格外品を使った商品提案



ポスターやパネル展示でのPR



### < 今後の取組予定 >

- ・やまぐちオリジナルリンドウの生産拡大に向けた新植及び新品種導入に向けた展示ほ設置、省力化技術の実証、共同選花体制整備に向けた実証
- ・やまぐちオリジナルユリの種苗供給安定化に向けた増殖技術の実証
- ・やまぐちオリジナル花きの消費拡大や利用定着に向けた若年層への普及活動

## 花の里かがわ推進委員会 (香川県)

協議会構成員：香川大学、香川県花き園芸協会、株式会社高松花市場、香川県花卉商業協同組合、香川県農業協同組合、農林中央金庫高松支店、香川県連合自治会、公益財団法人香川県老人クラブ連合会、香川県婦人団体連絡協議会、香川県、生活研究グループ連絡協議会、香川県消費者団体連絡協議会、公益社団法人日本フラワーデザイナー協会香川県支部、香川県園芸文化協会、JA香川県女性部、香川県農業者、高松市公園緑地課、善通寺市農林課、香川県商工会連合会、香川県観光協会、公益財団法人日本いけばな芸術協会、香川県盆栽生産振興協議会、香川県

### 戦略品目

- 切り花
- ・ 輪ギク
- ・ マーガレット
- ・ ラナンキュラス



### < 取組内容 >

#### 1 生産供給体制の強化

- ・ 輪ギクにおいて赤色LED照射による補光を実証し、冬季出荷作型の品質向上を図る。
- ・ 白輪ギクに代わる有色有望系統の特性を調査する。
- ・ ラナンキュラスの適切な施肥量の調査、有望系統の試作を実施し、品質・生産性の向上を図る。

#### 2 流通の効率化・高度化

- ・ マーガレットの混色出荷、脱葉処理の市場評価調査を行い、ニーズに対応した出荷規格の見直しを図る。

#### 3 需要の拡大

- ・ 「高校生花いけバトル香川大会」を開催し、出場者や来場者に戦略品目に対する関心を深める。
- ・ 戦略品目を用いて、公共施設でのフラワーモニュメント、各花き販売店でのアレンジディスプレイを実施し、フラワーバレンタインと戦略品目のPRを実施。
- ・ 「フラワーフェスティバルかがわ2022」において戦略品目を用いたブーケ、アレンジを作成し、SNSやリーフレット等でのPRにより認知度向上を図る。
- ・ コロナ禍における市場との連携促進を図るため、WEBを利用した連携強化に取り組む。

### < 取組の成果 >

- ・ 赤色LED照射による日中補光を行うことで、上位階級の切り花の割合が増加し品質向上効果が確認された。
- ・ 輪ギク有色有望系統の栽培・開花特性等の把握を通じ新品種導入の可能性が示されるとともに、市場評価も把握できた。
- ・ ラナンキュラスほ場では、硝酸態窒素濃度を目安に施肥指導を実施し、栽培マニュアルを拡充した。また新系統の試作で有望系統が示された。



赤色LEDによる日中補光

- ・ 混色出荷については、白も含めた混色出荷の需要が高いことが示された。また、脱葉の有無で出荷時の葉の萎れに差はなかったが、購入者アンケートでは半数が慣行よりも多い脱葉を希望し、脱葉の必要性が示された。



脱葉処理したマーガレット

- ・ 高校生花いけバトル香川大会では、過去最多の13校24チームの参加があった。無観客開催となったが、大会の動画再生回数は3400回を超え(R4.4月現在) 広く戦略品目をPRした。
- ・ フラワーバレンタインでのモニュメント展示は、多くのメディアに取り上げられ広く戦略品目の周知に繋がられた。また、各花店のディスプレイやフラワーフェスティバルで制作した戦略品目のアレンジ・ブーケについてはSNS等を通じて広く発信できラナンキュラスてまりシリーズの認知度は56%となった。
- ・ WEBを利用した市場との連携強化では、オンライン会議システムを利用し、ほ場の生育状況を中継することで、コロナ禍においても活発に意見交換することができた。



高校生花いけバトル



ほ場のWEB中継

### < 今後の取組予定 >

- ・ ラナンキュラスの適切な栽培方法の実証について、施肥量とともに土壌の水分量についても現地調査を行い、ラナンキュラスの生産性・草姿の改善に取り組む。
- ・ 流通の効率化・高度化について、陸送低温輸送、電子タグの利用による集荷管理の効率化の検討に取り組む。
- ・ 需要の拡大について、「高校生花いけバトル」の開催、「フラワーフェスティバル」を活用した県産花きのPRを行い、特にSNSを活用した情報発信に取り組む。



## 高知県園芸品販売拡大協議会 (高知県)

協議会構成団体: 高知県、高知県農業協同組合、土佐花き園芸市場

### 戦略品目

切り花: 球根切り花  
(グロリオサ・ユリ)



### < 取組内容 >

#### 1 生産供給体制の強化

- グロリオサで問題になっているミカンキイロアザミウマの防除を目的に、球根養成終了時のハウス蒸し込み処理を行い、防除効果と新球根への影響を調査した。
- ユリの土壌伝染性病害である疫病対策のため、低濃度エタノールを利用した土壌還元処理による防除方法を実証した。また米糠を利用した土壌還元消毒等の既存防除技術の防除効果について検証した。

### < 取組の成果 >

- ハウス蒸し込み処理前後の補虫数を調査したところ、処理後3日間で約2分の1、処理後7日間で約8分の1に減少した。処理中の90分間のハウス内最高気温は65.9℃、最高地温は33.6℃となったが、新塊茎の発芽および定植20日後の生育は対照区と差がなかったことから、簡易蒸し込み処理による新球根に対して影響がないと考えられる。  
なお、技術の普及に向けては、高温による塩ビパイプの変形を考慮する必要があることが確認できた。
- 低濃度エタノールを利用した土壌還元処理では、処理後2作目まで疫病の発生がなく、防除効果が確認できた。米糠を利用した土壌還元消毒等既存防除技術は、現状の処理方法における改善点が確認できた。



処理時の様子



処理時の様子

#### 3 需要の拡大

- 県内の高校生を対象に、県産花きを用いた花育体験(花いけバトル練習会)を実施し、県産花きの認知度向上と将来的な花の消費量の増加につなげる。

- 高校生延べ45名が参加。参加者の多くが「楽しかった」、過半数以上が「また花をいけたい」、「花のいけ方をもっと知りたい」と回答した。また、参加者のうち3名が花関係の進路に進んだ。



花いけバトル練習会

### < 今後の取組予定 >

- ユリ栽培における地下部環境の「見える化」実証
- 高校生を対象とした花育体験及び「高校生花いけバトル」の継続開催による、県産花きの認知度向上と消費拡大
- オランダへの安定出荷に向けたMPS認証取得の検討